流通とＳＣ・私の視点

2015 年 6 月 20 日

視点(1935)
（流通経済編）

モノ離れの数値的メカニズム（その１）!!

（１）消費のタイプ

日本は 1988 年にモノ離れが起こり、モノ離れ前の大量生産・大量販売・大量消費の連続性による経済の高度（中度）成長が終焉し、その後マクロ経済は低成長・ゼロ成長・マイナス成長が進んでいます。マクロのマーケットの縮小は、一般的には「マーケット規模の縮小」と「所得（消費）支出の減少」によって起こります。ここでのモノ離れという意味はマクロマーケットの需要の減少ではなく「ミクロ（家庭単位・個人単位)」の消費（モノ）離れを意味します。モノ離れする前の消費経済を「モダン消費」と呼び、モノ離れした後の消費経済を「ポストモダン消費」と呼びます。

モダン消費とは「モノを買い、モノを消費し、モノを所有し、モノを使用することの連続性に喜びを感じる生活向上志向の消費」と定義しています。

すなわち、モダン消費は常に消費（買物）に**必然性**があり、かつ消費（買物）に**執着心**があり、これから豊かになり、多様なライフスタイルを享受しようとする生活向上志向のニーズ＆ウォンツに対応した消費を意味します。ＧＤＰ（国内総生産）に占める消費の割合は、アメリカでは約 70%、日本では約 60%で、先進国になるにつれて高くなります。成熟した経済国家になればなるほどＧＤＰに占める消費のウエイトが高くなり、消費はＧＤＰを牽引する（押し上げる）ことになります。**モノ離れ以降は、このような消費（買物）に対する必然性と執着心が低下したため、低成長経済になる宿命を持っています。**

（２）消費のタイプ

モノ離れ減少を説明するに際して、消費のタイプ分類を行います。

<table>
<tr><td>ハードモノ消費</td><td colspan="5">ソフトモノ消費</td><td colspan="4">メインテナンス消費</td><td colspan="3">非消費</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物（小売業）</td><td colspan="5">広義のサービス消費</td><td rowspan="2">水道・光熱費・通信</td><td rowspan="2">居住</td><td rowspan="2">教育</td><td rowspan="2">その他(医療費等)</td><td rowspan="2">貯蓄・投資</td><td rowspan="2">税金</td><td rowspan="2">社会保障</td></tr>
<tr><td>外食</td><td>生活サービス</td><td>アミューズ・レジャー</td><td>情報</td><td>コンテンツ</td></tr>
<tr><td colspan="10">自由裁量支出</td><td colspan="3">非自由裁量支出</td></tr>
<tr><td colspan="6">広義のモノ消費</td><td colspan="4" rowspan="2">非モノ消費</td><td colspan="3" rowspan="2">非消費
（ただし支出）</td></tr>
<tr><td>狭義のモノ消費</td><td colspan="5">広義のサービス消費</td></tr>
<tr><td colspan="6">商業系消費</td><td colspan="7">非商業系消費</td></tr>
</table>

「狭義のモノ消費」はハードモノ消費（小売業への消費）のみを意味します。また「広義のモノ消費」はハードモノ消費にソフトモノ消費を加えた消費を意味します。広義のモノ消費は「ＳＣ対象消費」でもあります。

（３）可処分支出のタイプ

可処分支出は、**特定の固定的な消費を除いた自由に使える選択的支出（消費）**のことを意味しますが、ここでは３つのタイプに分類します。

①第１のタイプの可処分支出
　自由裁量支出（税金と社会保障支出を固定的とする消費）を可処分支出とするタイプ（貯蓄・投資も自由裁量支出に含む）

②第２のタイプの可処分支出
　メインテナンス消費と非消費を固定的消費とする可処分支出で広義のモノ消費（商業系消費）とするタイプ

③第３のタイプの可処分支出
　消費の中から、税金と社会保障支出と「個人・家庭にとっての固有の支出（例えばローンやスマホや教育費…等)」を固定的支出とする可処分支出のタイプ

（４）モノ離れの意義

モノ離れとは、モダン消費（大量生産・大量販売を基軸とする大量消費スタイル）が終焉し、「消費（買物）に必然性と執着心が希薄化した経済現象」を言います。消費のタイプとしては「ポストモダン消費」の経済段階です。

（流通とＳＣ・私の視点 1936 へ続く）

(株)ダイナミックマーケティング社[+6]
代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright(C)Dynamic Marketing Co. Ltd. 2015 All rights reserved.